

Rotary



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小口泰史
- 副会長／中村文明・林 尚孝
- 幹事／山崎典夫
- 会報委員長／梅垣和彦

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939

URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp

■ 例 会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2751 回例会 2016 年（平成 28 年）5 月 17 日(火)

早朝例会 ～清掃作業・小鳥鑑賞会～

於：塩嶺閣 午前 6 時 30 分

会長挨拶



おはようございます。本日は塩嶺公園にて、バードウォッチングをする早朝例会です。

残念ながら、雨降りになってしまいました。一週間前の週間天気予報でも本日の早朝は、雨マークでした。天気予報が外れる事を期待いたしましたが、最近の天気予報はかなり確実性をましている事が、今日は残念です。

昨年の中頃に、山崎幹事が一年間の例会予定を立案した時には丁度、下社の御柱祭の里引きの終了後に早朝例会を予定となっていましたので、御柱祭にてお疲れ気味の皆様方には、朝のすがすがしい風と心いらされる小鳥のさえずりで、疲れをとって頂けるのかなと思っておりましたが、それも叶いそうにありません。

塩嶺閣の室内にて、日本野鳥の会の林先生のお話をお聞きして、本日の例会とさせていただきます。



卓話「塩嶺 小鳥の森について」

日本野鳥の会 諏訪
会長 林 正敏 様

雨天のため、清掃活動、小鳥鑑賞は中止。

塩嶺閣にて塩嶺小鳥の森の歴史や小鳥バスについて林先生より、大変貴重なお話を伺いました。

日本一の三高峰 富士山・北岳・奥穂高岳 が望める!!

信州岡谷
塩嶺

小鳥バス
ガイド



お楽しみして
小鳥のバスに乗って
歩いていたら
小鳥たちの歌声が聞こえたり
可愛いくて癒されて
みんなにこにこしていたよ

岡谷

岡谷市



(昭和25年頃のバス)



(現在の小鳥バス)

走り続けて半世紀を経過した「小鳥バス」

野鳥の生息に適した塩嶺一帯は、渡り鳥など多くの鳥がいて戦前から戦後の昭和23年ころまで、渡り鳥用のカシミ網が置かれた鳥屋敷(とやば)があった場所でした。当時、塩嶺の活用を考えていた岡谷市は、「自然の素材を生かした公園づくりが望ましい」とした専門家の診断結果から、市議会全員協議会に地元の野鳥研究者で、教員だった故小沢万栄さんを招いて意見を求め、ここで「小鳥バス」が発案され、昭和29年に、日本野鳥の会諏訪支部の主催で始まりました。運行当初は5月から7月までの3ヵ月間でしたが、15日からは5月と6月の2ヵ月間の毎週日曜日となりました。小鳥のコースを楽しみながら自然を学ぶユニークな催しの知名度は高まって、小鳥バスファンも増えました。25回目からは事業も岡谷市に移管され、今では市の風物詩。「小鳥バス」は俳句の季節ともなりました。この事業の定着などにより、環境省は未来に残すべきとして、塩嶺の野鳥のさえずりを「日本の音風景100選」に認定しました。

歴史のなかの「塩嶺」とは

塩嶺とは略称で正しくは塩尻峠。峠には議論の余地も言われ、主要な街道だった旧中山道があり、峠の頂上の由来は日本海の塩と太平洋の塩が混ざった、終点を意味した所とされています。この峠はまた戦国時代の古戦場です。天文十一年(一五四〇)七月十九日、甲斐の武田信玄、松本的小笠原長時の軍勢が合戦しました。この時に陣取った小笠原軍は約五千、下諏訪に陣を構えた武田軍約七千、この戦いで武田軍は約百五十人討たれたが、小笠原軍はこの何倍もの巨大な兵を失って敗退したといわれています。この合戦は重要な戦いになったと伝えられています。また中山道は、文久元年(一八六〇)十月五日、皇女和宮が将軍家に嫁ぐ際にお通りになりました。後に明治天皇、昭和天皇が立ち寄られ、風光明媚な園観を楽しまれた御立(おのたて)公園である高い場所となりました。



自然の景観は

標高1020メートルの塩嶺御野立公園は、国立公園八ヶ岳中信高原の一角にあります。ここからは眼下の諏訪湖、その左に八ヶ岳連峰、右奥には南アルプスが望め、その中間に日本一の富士山(3775.6m)の眺めがあります。また第二峰の北岳(3192.4m)、第三峰の奥穂高岳(3190m)といった我が国の3高峰が見える所です。薬師らしき眺望は多くの人の感動を呼び、江戸時代には安藤広重が「富士三十六景」のひとつに、ここからの風景を写し絵に残しています。

起伏がゆるやかな公園内は、短時間で一周できます。ゆっくり歩いて自然を楽しみながら植物や昆虫、野鳥など生き物を観察してみませんか。ふだん気がない生き物の姿に、改めて感動することでしょう。また園内には、「小鳥バス」にちなんで建てられた文学碑もあります。鑑賞してみてください。



フデリンドウ(リンドウ科)
高さ5~8cmほどの小さな野鳥。花が閉じた蕾が蕾のように見えるためこの名がある

ヒゴスミレ(スミレ科)
ハート型の葉が多いスミレ科の中で、この種の葉は5つに細かく割れて風変わり

ホオノキ(モクレン科)
広葉樹のなかでも最大級の葉、そして素晴らしい香りの花も直径15cmと見事

トチノキ(トチノキ科)
手拍を打ったような大きな葉、トチの実にはリスなど動物にとって大切な食料となる

モミジチコ(バラ科)
モミジのような葉、白い花、6月下旬には実が熟し、黄色いイチゴが食べられる

塩嶺の植物たち
高木の樹木では常緑樹のアカマツやスギが、また落葉樹ではミズキ、コナラ、カエデ、クリ、ヤマザクラなどがあり、香の新緑は美しい。地上にはスミレ類やフデリンドウなど愛らしい野草が可憐な花を咲かせます。

中西悟堂の歌碑



中西悟堂(明治28年-昭和50年)
石川県の生まれ。昭和九年に日本野鳥の会を創設し、空気疎になる表羽の焼死、かすみ酒場の廃止など、野鳥の保護活動に力を尽くしました。「野鳥」(探鳥会)など野鳥記など百冊を超える著書があり、昭和五十二年には文化功労者に選ばれました。

小鳥バス十周年の記念で
おのがじし朝光(あさかげ)に立つ未々々ありて
奥た(おくた)はふかしもろどりのこま

水原秋桜子の句碑



水原秋桜子(明治25年-昭和56年)
東京都の生まれ。医学博士。関東大震災と東京大空襲の二回にわたり病院と自宅を消失。俳句は高浜虚子に影響を受け、後に「馬酔木」(あしび)を主宰、日本芸術院会員としても活躍しました。全集21巻は小多くの句集も残り、昭和42年に熊三等瑞宝章が贈られました。

小鳥バス二十五周年の記念で
慈悲心鳥(しひしんちよう)
翔(かけ)ゆく霧に田を越ゆる

水原秋桜子

森の常連たち

「森の常連たち」は、一年を通して森に生息する野鳥はこれまでに、百十種が確認されています。その中で二年を通して見られる留鳥は二十種余り、繁殖期間には四十種余りが観察されます。



キツツキ(キツツキ科)
樹皮を啄んで木中の虫を捕る。山には一人、谷には十人、と云われるほど繁殖する鳥は、キツツキである。



ウグイス(ウグイス科)
緑がかった灰褐色で、体は水平に近い。さえずりは「ウグイス」で、朝と夕方によく鳴く。



アカツツキ(キツツキ科)
黒頭や下腹の赤が目立つ。鳴きは「ツツキ」や「ツツキ」を打つ「ツツキ」……は、さえずりの夜目。

イカル(アトリ科)
くちばしが長く太く、群やかな黄色が特徴。さえずりは「キョーキョー」と長く続く。



シジュウカラ(シジュウカラ科)
のどから喉にかけて黒い縞が特徴で、さえずりは「ツツビ、ツツビ」と鳴く。



ヒヨドリ(ヒヨドリ科)
ムクドリよりやや大きく、全身が灰褐色。木の葉を好み、鳴きは「ヒヨ、ヒヨ」と鳴く。



エナガ(エナガ科)
小鳥の中でも特に小さいが、尾は長い。鳴きは「チー、チー」と鳴く。



ホトトギス(ホトトギス科)
冬は赤褐色、夏は黄褐色。木の葉を好み、鳴きは「ホトトギス」と鳴く。

夏鳥たち

冬季に南アジアなど暖かい国へ渡って過ごしていた「夏鳥」たちが、温暖な日本の森にもたくさん帰ってきます。その中には美しいの全手もたくさんいます。



コムリ(ツグミ科)
雄の背面は赤褐色だが、浅みの中では赤が目立たない。さえずりは「ツツ、ツツ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



クロツグミ(ツグミ科)
雄は胸から上は黒、白い腹には黒い斑がある。さえずりは「ツツ、ツツ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。

夜の森で、昼間とは違った生き物たちが活動が展開します。



トラツグミ(ツグミ科)
ツグミの中で最も大きく、全身に黒い斑がある。鳴きは「ツツ、ツツ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



タヌキ(イヌ科)
漢字では狸というように、昔は日本の人間の仲間にも見られる動物だが、現在は自分では黒いアマガミなどの古習を継ぐこともある。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。



テン(イタダ科)
地上の動物だけでなく、樹上でも行動する。ツグミ、オオムシクシ、木の葉を好み、冬には体毛が黄色くなる。ツグミと呼ばれることもある。



オオムシクシ(オオムシクシ科)
夏は黒く、冬は茶褐色になる。木の葉を好み、鳴きは「オオムシクシ」と鳴く。

留鳥としての いろいろな鳥も



キジ(キジ科)
日本の「国鳥」で有名だが、雄は羽色が鮮やかである。雌の羽色は地味な色である。鳴きは「キジ」と鳴く。

レンズを通して見る小鳥の姿に子どもたちも感動



鳥害防止隊員としての活動の中心は、鳥害防止の啓発活動です。鳥害防止隊員としての活動の中心は、鳥害防止の啓発活動です。鳥害防止隊員としての活動の中心は、鳥害防止の啓発活動です。



この地域の住民にとって、小鳥バスは美しい小鳥のさんずりに目を輝かせる空間のとき。観覧者では家に目を輝かしています。



林の奥からはツル、アカガラ、ウグイスなど可愛い鳥が飛びつくと見られる。



小林市鳥害防止隊員 中野 貴史氏（昭和三十三年生まれ）



心が揺るがない野鳥には、手裏さの動きを見せながらの説明も。



シメ、アトリ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシボロガラス、ハシブトガラス、カケス、オナガ、ハシボロガラス、ハシブトガラス

大塚やらの家に「冬鳥たち」の公刊。大塚やらの家に「冬鳥たち」の公刊。大塚やらの家に「冬鳥たち」の公刊。

冬鳥たち

近年の約30年間で記録された塩嶺一帯の野鳥は32科・110種類になります

年 月 日・確認 科 種

- | | | | |
|----------------|------------|--------------|---------------------|
| 【サキ科】 | 【サンショウクイ科】 | 【ヒタキ科】 | 【エナガ科】 |
| ゴイサギ、コサギ、アオサギ | サンショウクイ | キビタキ、オオルリ、 | エナガ |
| 【ガン科】 | 【モズ科】 | 【カササギ科】 | 【ホオジロ科】 |
| マガモ、カルガモ | アカモス、モズ | コサメビタキ | ホオジロ、ホオアカ、ミヤマホオジロ、 |
| 【シギ科】 | 【ミンサザイ科】 | 【カササギ科】 | カシラダカ、ノジコ、アオジ |
| ヤマシギ | ミンサザイ | 【シジュウカラ科】 | 【アトリ科】 |
| 【タカ科】 | 【ツグミ科】 | コルリ、ルリビタキ、 | アトリ、マヒワ、カワラヒワ、ベニヒワ、 |
| トビ、ツミ、ハチクマ、 | 【ウグイス科】 | ジョウビタキ、ノビタキ、 | 【シジュウカラ科】 |
| 【ハヤブサ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | ジョウビタキ、ノビタキ、 | ヒガラ、コガラ、 |
| 【カワウ科】 | オオヨシキリ、 | マミジロ、トラツグミ、 | 【シジュウカラ科】 |
| チョウゲンボウ | センダイムシクイ、 | クロツグミ、アカハラ、 | シジュウカラ、 |
| 【キジ科】 | 【ムクドリ科】 | シロハラ、ツグミ | ヤマガラ |
| キジ、ヤマドリ、コジュケイ | 【シジュウカラ科】 | 【ウグイス科】 | 【シジュウカラ科】 |
| 【ノド科】 | 【シジュウカラ科】 | 【ウグイス科】 | 【シジュウカラ科】 |
| 【ノド科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | ヤブサメ、ウグイス、 | 【シジュウカラ科】 |
| キジバト、アオバト | オオヨシキリ、 | オオヨシキリ、 | ゴジュウカラ |
| 【カワウ科】 | センダイムシクイ、 | センダイムシクイ、 | 【メジロ科】 |
| 【カワウ科】 | 【メジロ科】 | コメボトムシクイ、 | メジロ |
| ジュウイチ、ホトトギス、 | 【メジロ科】 | 【ウグイス科】 | |
| カウコウ、ツツドリ | 【メジロ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | |
| 【フクロウ科】 | 【メジロ科】 | オオヨシキリ、 | |
| オオコノハズク、フクロウ、 | 【メジロ科】 | センダイムシクイ、 | |
| 【ヨタカ科】 | 【メジロ科】 | 【ウグイス科】 | |
| ヨタカ | 【メジロ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | |
| 【カワセミ科】 | 【メジロ科】 | オオヨシキリ、 | |
| カワセミ | 【メジロ科】 | センダイムシクイ、 | |
| 【キツツ科】 | 【メジロ科】 | 【ウグイス科】 | |
| コガラ、アカガラ、 | 【メジロ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | |
| 【アマツバ科】 | 【メジロ科】 | オオヨシキリ、 | |
| 【アマツバ科】 | 【メジロ科】 | センダイムシクイ、 | |
| ハリオアマツバメ、アマツバメ | 【メジロ科】 | 【ウグイス科】 | |
| 【ツバメ科】 | 【メジロ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | |
| ツバメ、イワツバメ | 【メジロ科】 | オオヨシキリ、 | |
| 【セキレイ科】 | 【メジロ科】 | センダイムシクイ、 | |
| キセキレイ、セグロセキレイ、 | 【メジロ科】 | 【ウグイス科】 | |
| ハクセキレイ、ヒンズイ | 【メジロ科】 | ヤブサメ、ウグイス、 | |
| 【ヒヨドリ科】 | 【メジロ科】 | オオヨシキリ、 | |
| ヒヨドリ | 【メジロ科】 | センダイムシクイ、 | |



2015~2016年度 RI テーマ
世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

